

答えすると、千葉県の住宅総数は234万4千500戸、そのうち空き家は35万5千900戸、空き家比率15・2%、山武市では、総数2万3千20戸のうち、空き家が4千260戸で、空き家率は18・5%と、県平均を上回る状況です。

Q 空き家に対しての市民からの苦情の実態と、対応はどのようにしているか。

A 経済環境部長 平成21年度から24年8月までの3年半で、苦情件数61件のうち解決済みは45件です。内容は、倒壊の恐れや家屋の一部破損、雑草関係、枝、蜂の巣等の苦情などです。対応は、市民からの通報があった場合には、まず現地を確認し、現状を調査し、写真を撮影、所有者に電話し、適正管理をお願いします。連絡先がわからない場合は、文書にて指導書に写真を添えて送付し、適正管理をお願いします。

Q 最近、市独自で空き家条例を定めていますか。

る自治体が増えてきているが、山武市では今後どのように考えているのか。

A 経済環境部長 現在、山武市清潔で美しいまちづくりの推進に関する条例により、空き家の適正管理を指導してはいますが、この条例の主たる目的は、生活環境の美化の推進及び公衆衛生の向上に資することとなっております。全国的にも、空き家対策に特化した条例を制定する自治体が増えてきています。市でも、現行条例から一歩踏み込んだ新たな条例制定に向けて努力してまいります。

Q いじめ問題について市内の小中学校でのいじめの状況はどうか。

A 教育長 大津市の事件後の調査では、小学校が10校で28件、中学校では6校すべてで31件認知されています。認知された59件のうち55件は、一定の解消が図られていますが、残りの4件は現在、状況確認をして指導

中です。全体的には、大きな問題になるいじめはございませんが、継続して、支援・指導を行っています。

Q 学校でのいじめの予防策はどうか。

A 教育長 いじめは、絶対にしてはいけな

い、人権にかかわることだということの徹底と、道徳教育の充実を図ることが一番です。このよう

な認識を、教員・学校が一体となって共有して様々なところと連携して、早期に発見を図ることです。

Q 早期発見、早期対応はどのようにしているのか。

A 教育長 具体的にはいじめ問題のアンケート調査を随時実施し、実態把握に努めています。教育相談週間を設定し、児童生徒と担任が面談する機会を持つようになっています。

また、県からスクールカウンセラーを中学校6校に、市からは心の教育相談員を小学校10校、中学校5校に配置をし、子

供や保護者、教職員の教育相談活動を積極的に支援しています。

Q 全教員が、職員会議を通して、いじめ問題について共通理解と情報の共有を図り、養護教諭や教育相談担当職員、学級担任等を中心に、子ども達の様子の変化に十分な注意を払っています。

Q 日向の森利用計画について

A 市長 7月19日に県の防災危機管理部消防課が、日向の森を現地視察し、市側から候補地の状況説明をしました。消防学校の候補地は現在、佐倉市、市原市、印西市、八街市、山武市の五つの候補地から絞られると聞いていますが、県中央部が望ましいという意見が大半だそうです。現在候補地はまだ決定されていませんが、日向の森の有利な点を強調して、これから県と連絡をとって

いきます。

Q 日向の森の具体的な利用計画はどうか。

A 市長 全体的にどのような形でゾーンニングを決めて、どのような方向で考えていくかということの検討がなされていますが、具体的に何をどのようにしようという検討はしていません。

Q 日向の森の環境は素晴らしと思うが、道路が狭い。交通アクセスを解決しなければ、利用計画もできないのではないのか。

A 市長 インフラの整備につきましては、真ん中を通る道路の整備をしています。この道路が出来上がりますと、生活道路としての役割も果たし、誘致についても、多少有利な条件が満たされると思います。

Q インター方向に向かった道路が狭く、歩道もないが今後、長期的にも計画はないか。

A 市長 日向の森の利用を前提としたインフラ整備は、今、難しい

状況にあります。

日向の森は、自然環境の保全に十分配慮し、この自然は、旧山武地区の財産だと考えます。インフラを整えて、開発を誘導することは、今考えていません。

Q 農業関連問題について

A 農業の高齢化が進み、後継者が絶え、農地の荒廃化が進んでいる。遊休農地はどのくらいあるのか。

A 経済環境部長 昨年度の調査結果ですが、市内の農地は6千609ヘクタール、うち耕作放棄地は531・5ヘクタールが確認されています。その半数以上の296・5ヘクタールは、比較的簡単に手を加えることで、

市内の耕作放棄地



市内の耕作放棄地